

## 「体育学研究」水泳文献目録

杉 山 登

### は じ め に

日本体育学会が1951年に誕生してすでに35年の歳月が経過している。年々学会々員も増加し、研究発表者も漸増し近年においては、発表演題数も800題に及ぶまでになり、体育学研究の発展はめざましいものがある。学会で発表された研究は、学会大会記録として第1回大会と第7回大会以後については、各大会ごとに学会大会号として残されている。

学問のあらゆる分野において急テンポな科学の発展とともに、情報化時代の今日である。体育学の分野においては、会員の研究内容が広範化し、しかも細分化された研究がすすめられており、従来の体育学の概念では、これを包括し得なくなってきた。このような広範化し細分化し多面的研究がすすめられている流れの中で、水泳研究に関しては、どんな研究がなされ、そしてどこまで解明され、それをだれがどのようにして研究を行なったのか。これらを知ることとは今後の研究方向（課題）を把握する上で必要であろう。

ところで、現在、体育学研究の中で関係文献を一括概観できるものとして『谷村辰巳編、体育学研究文献目録（第1巻）、不昧堂出版、昭和45年』がある。ここには体育学会発表論文第1回（1951年）から第20回（1971年）までが収録されており、体育学の体系構造を保ちつつ、20綱目にわたりさらに細分化されて分類されている。これは単的に云うと関係文献が20領域にわたって、各領域ごとに関係外文献とともに収録された体系がとられているということである。したがって、これを利用する立場からすると関係論文を検索するのに時間を要し、非能率的である。できうれば、各運動領域ごとの目録があれば非常に便利

と思うのである。つまり、水泳のみに関する文献が一括分類され、概観できるものがあればと望まれるところである。しかしながらこのような文献目録は現在には皆無である。

以上のようなことから微力ながら水泳研究のために何らかの手助けともなればと思い「体育学研究」水泳文献目録の作成にとりかかったのである。

### 目録の作成にあたって

- (1) 本文献目録は「体育学研究」1951年（昭和26年）7月から1986年（昭和61年）6月までに発表されている水泳関係論文を収録した。
- (2) 編集にあたり、文献分類に関しては、日本体育学会において作成された分類コード表によらず、〈表-1〉に示すように水泳の特徴を考慮して独自の分類方法をとった。これは水泳研究論文のみならず、水泳関係記事等の分類も考慮して筆者が作成したものである。
- (3) 7類33綱に分け、綱によっては細分類して選択の便を計った。
- (4) 文献配列順序は発表年代にしたがった。
- (5) 記載にあたりその順序は（通し番号）、研究発表者、「題名（副題）」、大会、巻・（号）、頁数、西暦（日本年号）とした。
- (6) 全文献に一貫番号をつけた。
- (7) 研究発表者複数以上の場合は、筆頭者氏名のみ記載し、以下「ほか」とした。
- (8) 大会記録・大会号と原著の区別を明記した。
- (9) 日本年号では昭和を「S」の記号で示した。

&lt;表-1&gt; 水泳関係文献及び関係雑誌記事分類基準表

類	網	目	類	網	目
指 導	1.一 般 指 導 法	①初心者指導 ②年令別対象指導	基 礎 科 学 〈3〉	1.生 理 学	
	2.各 種 泳 法 解 説・分・析	①競泳法 ②日本泳法		2.心 理 学	
		③飛び込み・潜水 ④水球		3.バイオメカニクス	
		⑤シンクロナイズド・スイミング		4.社 会 学	
		⑥その他		5.教 育 学	
	3.乳 幼 児 指 導		歴 史 〈4〉	1.競 泳 史	
	4.ト レ ー ニ ン グ			2.日 本 泳 法 史	
	5.矯 正 法			3.S C 史	
	6.器 具 使 用 指 導			4.そ の 他 史 的 事 項	
〈1〉	7.特 殊 泳 者 指 導	①身体障害者 ②マタニティ ③喘息者 ④その他	記 録 〈5〉	1.競 技 記 録	
	8.文 献			2.記録に関する調査	
	9.そ の 他			3.内 外 競 技 報 告	①内外競技会・記録会 ②遠征 ③対抗戦・合同練習・リーグ戦 ④観戦記・競技会解説 ⑤その他
				4.視 察 研 修 報 告	①視察 ②合宿 ③研修会・講習会・コーチ会
管 理	1.施 設 管 理	①施設設備計画・施工・建設 ②施設機械機具・用具用品の開発 ③施設維持・運営・安全管理・実 践事例 ④水の衛生管理 ⑤統計・調査資料 ⑥その他		5.関 係 機 関 報 告	
				6.水 泳 関 係 規 則	
				7.そ の 他	
	2.対 人 管 理	①保健衛生管理 ②管理者・指導者・スイマーの実 態 ③安全教育・事故防止・安全対策 ④救助法・救急処置法 ⑤測定・評価 ⑥統計・調査資料 ⑦事故と補償 ⑧その他	原 理 〈6〉	1.原 理 的 な も の	①水泳原理・理論 ②評論・解説 ③提言・所感・意見
				2.随 筆 的 な も の	①随想・感想・手記 ②物語・小説
			情 報 〈7〉	1.内 外 情 報	①国内情報・話題 ②国外情報・話題 ③座談会・対談 ④人物評・紹介・訪問
				2.そ の 他	
〈2〉	3.総 合 管 理				
	4.行 事 計 画 運 営	①遠泳 ②競技大会 ③野外活動・水泳教室 ④行財政 ⑤その他			

## 「体育学研究」水泳文献目録

## 〈1〉指導に関する研究

## 1-1-1 初心者指導

- (1) 今田良一, ほか「水泳実習の実験における一考察, 第1報 (専攻生の水泳実習について, その1)」6. 大会記録 30 p 1955 (S 30)
- (2) 高山博, ほか「水泳における技術指導の実験的研究」12. 7-(1) 250 p 1962 (S 37)
- (3) 中村敏雄, ほか「水泳技術指導における問題点(1)」12. 7-(1) 251 p 1962 (S 37)
- (4) 布施茂治, ほか「水泳の技術指導に於ける実験的研究 (第2報) ——特に初心者指導に於ける系統性について——」13. 8-(1) 124 p 1963 (S 38)
- (5) 中村敏雄, ほか「水泳技術指導における問題点(2)」13. 8-(1) 125 p 1963 (S 38)
- (6) 布施茂治, ほか「水泳の技術指導に於ける実験的研究——初心者指導に於ける系統性——」14. 9-(1) 273 p 1964 (S 39)
- (7) 吉田勝平「水泳技術指導上の諸問題」15. 10-(1) 83 p 1965 (S 40)
- (8) 横山一郎, ほか「大学における水泳指導に関する研究」18. 12-(5) 191 p 1968 (S 43)
- (9) 高橋伍郎「水泳の初心者指導の研究 (距離泳について)」19. 13-(5) 289 p 1969 (S 44)
- (10) 阪上光代, ほか「水泳初心者の泳法選択について」19. 13-(5) 289 p 1969 (S 44)
- (11) 佐藤幹夫, ほか「東洋大学における臨海水泳教室の初心者指導に関する一つの試み」20. 14-(5) 297 p 1970 (S 45)
- (12) 杉原潤之輔, ほか「Non-Swimmer の水中動作の特徴について」20. 14-(5) 299 p 1970 (S 45)
- (13) 来栖寛「初心者水泳指導の研究——息こらえについて——」21. 15-(5) 226 p 1971 (S 56)
- (14) 松本寿吉「水泳学習に影響する要因」23. 大会号 467 p 1972 (S 47)
- (15) 松岡重信「水泳初心者指導における教程比較の実験的研究」24. 大会号 306 p 1973 (S 48)
- (16) 吉田勝平「浮くまでと浮いてから」25. 大会号 363 p 1974 (S 49)
- (17) 佐野清次郎「水泳実習の練習効果について」25. 大会号 364 p 1974 (S 49)
- (18) 松岡重信「水泳の初心者指導体系に関する一考察」27. 大会号 176 p 1976 (S 51)
- (19) 村川俊彦, ほか「水泳初心者指導における一考察」28. 大会号 612 p 1977 (S 52)
- (20) 高橋伍郎「水泳授業における20分間泳の検討」30. 大会号 554 p 1979 (S 54)
- (21) 酒井志郎, ほか「水泳初心者指導法——呼吸法の取り方について——」31. 大会号 627 p 1980 (S 55)

- (22) 村川俊彦, ほか「水泳初心者指導における一考察——スピード変化にみる泳運動の発達——」33. 大会号 597 p 1982 (S 57)
- (23) 村川俊彦, ほか「水泳初心者指導における一考察——スピード変化にみる泳運動の発達(小学生)——」34. 大会号 566 p 1983 (S 58)
- (24) 宮畑虎彦「水泳初心者の指導——指導内容としての(けん引)について——」35. 大会号 678 p 1984 (S 59)
- (25) 宮畑虎彦「水泳初心者の指導——指導内容としての(けん引)その2:スピードの向上について——」36. 大会号 717 p 1985 (S 60)
- 1-2-1 競泳法
- (26) 宮畑虎彦, ほか「平泳ぎにおける足のけり方についての考察」10. 5-(1) 134 p 1960 (S 35)
- (27) 佐野清次郎「平泳ぎの脚の動作について」21. 15-(5) 226 p 1971 (S 46)
- (28) 滝瀬定文, ほか「クロール泳法における2キックと6キックの違いについて」26. 大会号 546 p 1975 (S 50)
- (29) 小林堯, ほか「クロール泳法の研究——2ビート泳法と6ビート泳法の比較——」26. 大会号 547 p 1975 (S 50)
- (30) 滝瀬定文, ほか「クロール泳法における2 kick と6 kick の違いについて」27. 大会号 257 p 1976 (S 51)
- (31) 徳山広, ほか「水泳運動の基礎的研究——バタ足動作(主としてフォーム)の習熟過程について——」28. 大会号 613 p 1977 (S 52)
- (32) 宮畑虎彦「平泳ぎのキックについて」29. 大会号 450 p 1978 (S 53)
- (33) 小西達郎, ほか「某高校水泳部員の競泳記録(主としてターニング)」29. 大会号 464 p 1978 (S 53)
- (34) 小西達郎, ほか「競泳時のターニングについて(第2報)」30. 大会号 543 p 1979 (S 54)
- (35) 宮畑虎彦「クロールのスピードと手足の協応」30. 大会号 557 p 1979 (S 54)
- (36) 吉田章, ほか「水泳モスクワ・オリンピック候補選手のスタート動作について」31. 大会号 623 p 1980 (S 55)
- (37) 小西達郎, ほか「競泳時のターニングについて(第3報)」31. 大会号 624 p 1980 (S 55)
- (38) 宮畑虎彦, ほか「ハイ・エルボウについて」31. 大会号 629 p 1980 (S 55)
- (39) 村川俊彦, ほか「水泳のスピード変化について」32. 大会号 632 p 1981 (S 56)
- (40) 滝瀬定文「BUTTERFLY 泳法における水泳スピードと筋電図積分値の関係について」32. 大会号 633 p 1981 (S 56)
- (41) 小西達郎, ほか「競泳時のターニングについて」32. 大会号 652 p 1981 (S 56)
- (42) 山田優香里「バタフライの運動リズムに関する考察」33. 大会号 596 p 1982 (S 57)

(43) 北川幸夫, ほか「平泳ぎにおける1かき1けりについて」34. 大会号 561 p 1983 (S 58)

(44) 山田優香里「バタフライ泳法の運動リズム形式に関する研究」34. 大会号 562 p 1983 (S 58)

(45) 小西達郎, ほか「競泳時のターニングについて(第5報)」34. 大会号 565 p 1983 (S 58)

#### 1-2-2 日本泳法

(46) 中村恵子「水府流太田派の泳法について——頭の向きに関して——」30. 大会号 556 p 1979 (S 54)

(47) 中村恵子「水府流太田派の泳法について——扇足の速度変化——」31. 大会号 628 p 1980 (S 55)

(48) 宮畑虎彦「日本泳法と競泳法における体(腰)の動きの差違について」32. 大会号 649 p 1981 (S 56)

(49) 中村恵子「水府流太田派の泳法——一重伸の速度変化——」32. 大会号 651 p 1981 (S 56)

(50) 中村恵子, ほか「水府流太田派の泳法——扇足の速度変化——」33. 大会号 595 p 1982 (S 57)

#### 1-2-3 飛び込み・潜水

(51) 篠塚睿「初心者飛び込み指導について」10. 5-(1) 148 p 1934 (S 35)

(52) 小田敏彰「飛び込み競技初心者指導におけるトランポリンの利用法について」14. 9-(1) 269 p 1964 (S 39)

(53) 井坂恵裕, ほか「水泳の“とび込み”指導に関する基礎的研究」16. 10-(2) 277 p 1966 (S 41)

(54) 吉田章, ほか「飛び込み競技におけるノースplash入水技術に関する研究」34. 大会号 563 p 1983 (S 58)

(55) 高山誠, ほか「競泳のグラブスタートについて」34. 大会号 564 p 1983 (S 58)

(56) 北川幸夫, ほか「競泳スタート時の足幅について」35. 大会号 682号 1984 (S 59)

(57) 椿本昇三, ほか「スキンドайビング(集中授業)における学生の潜水技能について」36. 大会号 722 p 1985 (S 60)

(58) 北一郎, ほか「高さをかえた水泳スタートの実験的研究」36. 大会号 818 p 1985 (S 60)

#### 1-2-4 水球

(59) 牧脩弘, ほか「水球選手強化について」14. 9-(1) 265 p 1964 (S 39)

(60) 疋田啓吉, ほか「水球ゲームのタイムスタディによる研究」21. 15-(5) 225 p 1971 (S 46)

(61) 疋田啓吉, ほか「水球ゲームのタイムスタディによる研究」22. 大会号 480 p 1971 (S 46)

- (62) 齊藤好史, ほか「水球における投動作の分析」32. 大会号 650 p 1981 (S 56)
- (63) 高山誠, ほか「水球における投動作——ハンド・ツーハンド・シュートについて——」33. 大会号 594 p 1982 (S 57)
- (64) 椿本昇三, ほか「水球競技における VTR を用いたゲーム分析の試み」34. 大会号 590 p 1983 (S 58)
- (65) 高山誠, ほか「水球ゲームの分析——防御側退水時における攻撃について——」35. 大会号 684 p 1984 (S 59)
- (66) 高山誠, ほか「水球ゲーム分析(2)」36. 大会号 723 p 1985 (S 60)
- (67) 宮城進, ほか「水球競技におけるゲーム分析に関する研究——ロス・オリンピックの場合——」36. 大会号 724 p 1985 (S 60)
- 1-2-6 その他
- (68) 布施茂治, ほか「ドル平泳法を基礎泳法とした近代泳法への体系化」21. 15-(5) 225 p 1971 (S 46)
- (69) 松岡重信, ほか「水泳初心者指導における『ドル平』の位置づけと問題点」30. 大会号 677 p 1979 (S 54)
- 1-3 乳幼児指導
- (70) 有馬征, ほか「幼児の水泳指導における一考察——陸上運動能力と水泳能力の比較指導——」20. 14-(5) 298 p 1970 (S 45)
- (71) 野田多恵子, ほか「幼児の水泳指導」21. 15-(5) 240 p 1971 (S 46)
- (72) 加藤芳雄「幼児の水泳指導」21. 15-(5) 241 p 1971 (S 46)
- (73) 野崎康則, ほか「幼児の水泳能力及びその練習効果の分析」26. 大会号 545 p 1975 (S 50)
- (74) 沢田和明, ほか「幼児水泳の集団指導の可能性と限界に関する研究 (第1報)」29. 大会号 517 p 1978 (S 53)
- (75) 斉田ゆかり, ほか「0歳児水泳の練習効果」30. 大会号 455 p 1979 (S 54)
- 1-4 トレーニング
- (76) 宮下充正, ほか「水泳における筋力と技術について」12. 7-(1) 192 p 1962 (S 37)
- (77) 金子基之, ほか「水泳のための陸上トレーニングと技能成就度との関係について」14. 9-(1) 264 p 1964 (S 39)
- (78) 牧脩弘, ほか「水泳選手強化について——指導の経過について——」14. 9-(1) 265 p 1964 (S 39)
- (79) 金子基之, ほか「初心者の水泳指導について (女子) ——筋力と泳法との関係——」17. 11-(5) 164 p 1967 (S 42)
- (80) 小村堯「水泳のウォーミング・アップに関する研究」23. 大会号 472 p 1972 (S 47)
- (81) 小野三嗣, ほか「水泳トレーニングの体柔軟性に及ぼす影響」29. 大会号 611 p 1978 (S 53)

## 1-6 器具使用指導

- (82) 佐野清次郎「水泳初心者の指導法に関する研究」16. 10-(2) 276 p 1966 (S 41)
- (83) 太田義一, ほか「各種の器具を用いた水泳の基礎練習に関する研究」17. 11-(5) 217 p 1967 (S 42)
- (84) 村川俊彦, ほか「水泳初心者指導における一考察——補助器具との関連において——」30. 大会号 553 p 1979 (S 54)
- (85) 宮畑虎彦, ほか「ビート板の特性とその作用について」33. 大会号 599 p 1982 (S 57)
- (86) 柴田義晴, ほか「器具を用いた水泳練習について——バタフライ泳法の場合——」34. 大会号 693 p 1983 (S 58)
- (87) 宮畑虎彦, ほか「ビート板の特性とその作用について (その2)」34. 大会号 694 p 1983 (S 58)

## 1-7-1 特殊泳者指導

- (88) 板垣了平「小児マヒ患者に対する体育的研究——水泳訓練効果——」8. 2-(7) 160 p 1957 (S 32)
- (89) 井出寿郎, ほか「分裂病と水泳」25. 大会号 277 p 1974 (S 49)
- (90) 河野信弘, ほか「肢体不自由の水泳指導」29. 大会号 449 p 1978 (S 53)
- (91) 鎌田正裕, ほか「肢体不自由の水泳訓練効果について」29. 大会号 586 p 1978 (S 53)
- (92) 河野信弘, ほか「肢体不自由の水泳指導」30. 大会号 555 p 1979 (S 54)
- (93) 松岡重信「障害児の水中動作パターン形成に関する実践的事例研究」33. 大会号 798 p 1982 (S 57)

## 1-7-4 その他

- (94) 中西征夫, ほか「小児糖尿病患者の指導法について (夏期療育キャンプの体験から)」26. 大会号 642 p 1975 (S 50)

## 1-8 文献

- (95) 岸檣夫, ほか「水泳指導に関する考察 (第4報) ——日本における水泳の文献について——」14. 9-(1) 271 p 1964 (S 39)
- (96) 佐々木茂, ほか「水泳指導に関する考察 (第5報) ——米国における水泳文献について——」14. 9-(1) 272 p 1964 (S 39)
- (97) 杉山登「戦後における国内水泳関係文献について」25. 大会号 1974 (S 49)

## 1-9 その他

- (98) 大塚直, ほか「女子水泳合宿における二, 三の考察について」6. 大会記録 42 p 1955 (S 30)
- (99) 東次右衛門, ほか「水泳合宿中の一考察」6. 大会記録 42 p 1955 (S 30)
- (100) 堤勉夫, ほか「天理市小中学校児童の遊びにおける水泳の位置」13. 8-(1) 252 p 1963 (S 38)



- (101) 佐野清次郎「体育運動に対する集中度について——水泳と走との場合——」28.  
大会号 610 p 1977 (S 52)
- (102) 山崎忠志, ほか「克服スポーツとしての水泳の特性について」29. 大会号 530 p  
1978 (S 53)
- (103) 柴田義晴, ほか「いわゆる“泳ぎのうまさ”について」31. 大会号 626 p 1980 (S  
55)
- (104) 小笠原悦子, ほか「女子大学生水泳選手の泳動作と推進力の分析」33. 大会号  
598 p 1982 (S 57)
- (105) 千葉章, ほか「水泳指導に関する基礎的研究」34. 大会号 674 p 1983 (S 58)
- (106) 千葉章, ほか「人間の生活・生存に着目した泳ぎに関する基礎的研究」35. 大会  
号 677 p 1984 (S 59)
- (107) 千葉章, ほか「人間の生活・生存のための水泳に関する基礎的研究」36. 大会号  
716 p 1985 (S 60)
- (108) 吉田勝志, ほか「40歳代中年男子の日常の水泳運動に関する研究」36. 大会号  
718 p 1985 (S 60)
- (109) 野村武男, ほか「大学生遠泳における中途退水者についての検討」36. 大会号  
719 p 1985 (S 60)
- (110) 杉原潤之輔, ほか「水中における人体の剰余浮力の測定——日本とオーストリア  
の体育スポーツ専攻男子学生について——」36. 大会号 720 p 1985 (S 60)

## 〈2〉管理に関する研究

### 2-1-2 施設機械機具・用具用品の開発

- (111) 山本義春, ほか「新しく開発された水中心拍計の検討」35. 大会号 330 p 1984 (S  
59)

### 2-1-3 施設維持・運営・安全管理

- (112) 佐藤克己, ほか「プールの施設と管理について」20. 14-(5) 240 p 1970 (S 45)
- (113) 山本和子, ほか「海水浴場の施設・管理について」21. 15-(5) 177 p 1971 (S 46)
- (114) 吉田章, ほか「簡易型プール上屋の設置に伴う効果について」35. 大会号 683 p  
1984 (S 59)
- (115) 中村平「公営スイミングプールの経営対象に関する研究」36. 大会号 467 p 1985  
(S 60)

### 2-1-4 水の衛生管理

- (116) 阿部三亥, ほか「プール汚染とその管理に関する研究」4. 大会記録 27 p 1953 (S  
28)
- (117) 端山篤, ほか「プール汚染とその管理に関する研究 (第2報)」5. 大会記録 24  
p 1954 (S 29)

- (118) 端山篤, ほか「プール汚染とその管理に関する研究 (第3報)」6. 大会記録 42 p 1955 (S 30)
- (119) 阿部三玄, ほか「プール汚染とその管理に関する研究 (第4報)」7. 2-(7) 112 p 1957 (S 32)
- (120) 大塚正八郎, ほか「プール汚染とその管理に関する研究 (第5報)」8. 3-(1) 250 p 1958 (S 33)
- (121) 小野真一, ほか「プール汚染とその管理に関する研究 (第6報)」9. 4-(1) 67 p 1959 (S 34)
- (122) 小瀬洋喜, ほか「プールの衛生管理について」9. 4-(1) 68 p 1959 (S 34)
- (123) 北浜章, ほか「千葉県沿岸海水浴場の水質について」9. 4-(1) 69 p 1959 (S 34)
- (124) 小野真一, ほか「プール汚染とその管理に関する研究 (第7報)」10. 5-(1) 237 p 1960 (S 35)
- (125) 奥田博「水泳プールの衛生学的研究——プール水の消毒法並びに衛生学的試験結果——」10. 5-(1) 238 p 1960 (S 35)
- (126) 西脇澄, ほか「プールの衛生管理について (第2報)」10. 5-(1) 239 p 1960 (S 35)
- (127) 小野真一, ほか「プール汚染とその管理に関する研究 (第8報)」11. 6-(1) 106 p 1961 (S 36)
- (128) 西脇澄, ほか「プールの衛生管理に関する研究 (第3報) ——さらし粉上澄液の濾取法について——」12. 7-(1) 124 p 1962 (S 37)
- (129) 奥田博「水泳プールの衛生管理」12. 7-(1) 125 p 1962 (S 37)
- (130) 小野真一, ほか「プール汚染とその管理に関する研究 (第9報) ——東京都内各種プールの管理について——」12. 7-(1) 126 p 1962 (S 37)
- (131) 森昭三, ほか「多摩川を中心とした河川水泳場の水質検査」12. 7-(1) 127 p 1962 (S 37)
- 2-1-5 統計・調査資料
- (132) 石橋保, ほか「プール設置に伴う児童・生徒の教育的効果について (その1)」10. 5-(1) 338 p 1960 (S 35)
- (133) 森田喜次郎, ほか「プール設置に伴う児童・生徒の教育的効果について (その2)」10. 5-(1) 339 p 1960 (S 35)
- 2-2-1 保健・衛生管理
- (134) 阿部三玄, ほか「水泳選手の聴力について」3. 大会記録 11 p 1952 (S 27)
- (135) 椿恒城, ほか「夏期合宿における健康管理について」13. 8-(1) 276 p 1963 (S 38)
- (136) 勝村竜一, ほか「臨海生活における学童の保健管理について」14. 9-(1) 364 p 1964 (S 39)

## 2-2-2 管理者・指導者・スイマーの実態報告

- (137) 青井水月, ほか「大学生の水泳未修者についての調査」5. 大会記録 25 p 1954 (S 29)
- (138) 四宮馨「主として児童の水泳に関する実態調査」6. 大会記録 3 p 1955 (S 30)
- (139) 野口源三郎, ほか「小学校教員の水泳能力に関する調査」7. 2-(7) 85 p 1957 (S 32)
- (140) 日高明, ほか「中学校教員の水泳能力に関する調査」7. 2-(7) 86 p 1957 (S 32)
- (141) 佐藤照男「本学教養部学生の水泳に関する調査について」7. 2-(7) 87 p 1957 (S 32)
- (142) 石橋保, ほか「教師の水泳能力に関する一考察——久留米市小・中学校教師を対象とした——」8. 3-(1) 37 p 1958 (S 33)
- (143) 会田勝, ほか「本学々生の水泳能力に関する調査」9. 4-(1) 207 p 1959 (S 34)
- (144) 上野敦男, ほか「本校学生の水泳能力に関する実態調査」11. 6-(1) 221 p 1961 (S 36)
- (145) 篝正義, ほか「水泳指導に関する一考察(第1報)——本学生の実態について, その2——」11. 6-(1) 257 p 1961 (S 36)
- (146) 久保田正躬, ほか「水泳指導に関する一考察(第1報)——本学の実態, その1——」11. 6-(1) 258 p 1961 (S 36)
- (147) 堤廸夫, ほか「水泳指導に関する考察, 第2報(その1)——天理市小・中学児童生徒の泳力について——」12. 7-(1) 256 p 1962 (S 37)
- (148) 三輪守男, ほか「天理市小・中学校水泳指導の実態——水泳指導に関する考察(第4報)——」13. 8-(1) 151 p 1963 (S 38)
- (149) 杉山登, ほか「北海道における小学校の水泳に関する調査——その実態と問題点——」14. 9-(1) 211 p 1964 (S 39)
- (150) 堀安高綾, ほか「大学における水泳実習の形態と内容について——主として教育系大学の実態調査から——」18. 12-(5) 191 p 1968 (S 43)
- (151) 今野睦夫, ほか「水泳に関する調査研究」21. 15-(5) 240 p 1971 (S 46)
- (152) 安部泰人, ほか「短期大学女子学生の水泳能力に関する調査研究」23. 大会号 466 p 1972 (S 47)
- (153) 三沢恵子, ほか「本学々生の水泳に関する調査」25. 大会号 60 p 1974 (S 49)

## 2-2-3 安全教育・事故防止・安全対策

- (154) 山崎忠志「岡山県の水泳事故に関する研究」11. 6-(1) 83 p 1961 (S 36)
- (155) 吉田都男「プールにおける監視・監督はいかにすべきか」12. 7-(1) 424 p 1962 (S 37)
- (156) 吉田都男「プールにおける事故発生と対策について」13. 8-(1) 118 p 1963 (S 38)

- (157) 伊藤堯「スポーツ事故における指導者、監督者の法的責任について（津市立中学校水死事件判決を中心として）」17. 11-(5) 255 p 1967 (S 42)
- 2-2-4 救急処置法・救助法
- (158) 古賀長善, ほか「小堀流にみる溺死救法」32. 大会号 711 p 1981 (S 56)
- 2-2-5 測定・評価
- (159) 福田邦三, ほか「小中学生の潜水時間」1. 原著 104 p 1951 (S 26)
- (160) 山本万寿「海女の体力調査」3. 大会記録 7 p 1952 (S 27)
- (161) 長谷川八郎, ほか「大学生の潜水時間」3. 大会記録 18 p 1952 (S 27)
- (162) 藤本実雄ほか「持久力の研究(2)特に中学生の水泳競技について」5. 大会記録 9 p 1954 (S 29)
- (163) 玉野勝郎「水泳実習の評価, その3」6. 大会記録 30 p 1955 (S 30)
- (164) 井上正喜, ほか「水泳合宿練習における体力の推移について (第1報)」11. 6-(1) 192 p 1961 (S 36)
- (165) 森田茂, ほか「水泳選手の身体の柔軟性について」12. 7-(1) 96 p 1962 (S 37)
- (166) 川島俊明, ほか「水泳指導における基礎的研究——適性的側面について——」12. 7-(1) 254 p 1962 (S 37)
- (167) 金子基之「水泳技能の成就度と体力との関係について (大学女子学生)」13. 8-(1) 37 p 1963 (S 38)
- (168) 佐野清次郎「筋力と水泳能との関係に関する研究」13. 8-(1) 173 p 1963 (S 38)
- (169) 安井邦治, ほか「水泳の種目別選手の形態的特徴の一考察」14. 9-(1) 70 p 1964 (S 39)
- (170) 佐野清次郎「身体の敏捷性と水泳能力との関係に関する研究」14. 9-(1) 266 p 1964 (S 39)
- (171) 安井邦治, ほか「水泳の種目別選手の形態的特徴 (その2)」16. 10-(3) 316 p 1966 (S 41)
- (172) 金子基之, ほか「初心者の水泳指導について (女子) ——筋力と泳法の関係——」17. 11-(5) 1967 (S 42)
- (173) 佐野清次郎, ほか「水泳実習の体力的効果に関する研究」17. 11-(5) 215 p 1967 (S 42)
- (174) 阪上光代「水泳能力と基礎的体力の関係」18. 12-(5) 190 p 1968 (S 43)
- (175) 雨宮輝也, ほか「水泳の発育発達におよぼす効果 (第1報)」18. 12-(5) 308 p 1968 (S 43)
- (176) 花田明, ほか「オリンピック大会における階級制拡大についての研究 (第1報) ——体重を中心とした考察その2, 水泳, ウェイト・リフティングの成績と体重との関係について——」19. 13-(5) 202 p 1969 (S 44)
- (177) 寺尾豊, ほか「水泳に於ける水泳能力と体の発育との相連性について」19. 16-

- (5) 287 p 1969 ( S 44)
- (178) 杉原潤之輔, ほか「人体の浮力の個人差と泳力の関係について」19. 13-(5) 288 p 1969 ( S 44)
- (179) 堀安高綾, ほか「水泳技能習得と形態, 機能との関連性についての考察」19. 13-(5) 288 p 1969 ( S 44)
- (180) 雨宮輝也, ほか「某水泳クラブ員の追跡的体力測定について」20. 14-(5) 178 p 1970 ( S 45)
- (181) 坂田勇夫, ほか「低水泳運動能力者に関する研究」20. 14-(5) 284 p 1970 ( S 45)
- (182) 高橋伍郎, ほか「水泳初心者指導の研究 (スピード泳能力について)」20. 14-(5) 297 p 1970 ( S 45)
- (183) 小沢茂男, ほか「水泳運動能力の研究 (距離泳能力に関して)」20. 14-(5) 298 p 1970 ( S 45)
- (184) 市川進也, ほか「水泳技能発達の調査研究」21. 15-(5) 75 p 1971 ( S 46)
- (185) 坂田勇夫, ほか「水泳指導に関する研究——浮漂能力について——」21. 15-(5) 241 p 1971 ( S 46)
- (186) 岡田貴子「競泳至適年に関する研究」22. 大会号 207 p 1971 ( S 46)
- (187) 日高敬児「佐賀県における小中高校児童生徒の可泳距離について」23. 大会号 465 p 1971 ( S 46)
- (188) 佐藤光毅, ほか「オリンピック大会における水泳競技成績の体格基準回帰評価法について」25. 大会号 307 p 1974 ( S 49)
- (189) 小村堯「水泳選手の身体的特徴について」25. 大会号 361 p 1974 ( S 49)
- (190) 岡ゆり, ほか「女子競泳選手における筋力特性について」26. 大会号 269 p 1975 ( S 50)
- (191) 野崎康明「幼児の水泳能力に関する研究」27. 大会号 366 p 1976 ( S 51)
- (192) 合屋十四秋, ほか「水球選手の体力と技術」27. 大会号 418 p 1976 ( S 51)
- (193) 佐野清次郎「水泳における習熟遅滞者の体力的特性について」27. 大会号 457 p 1976 ( S 51)
- (194) 滝瀬定文, ほか「クロール泳法におけるスピードと力の関係について」28. 大会号 308 p 1977 ( S 52)
- (195) 雨宮輝也, ほか「某スイミングクラブ員の10ヶ年にわたる体力推移」28. 大会号 479 p 1977 ( S 52)
- (196) 出村慎一, ほか「柔軟性と水泳パフォーマンス」29. 大会号 415 p 1978 ( S 53)
- (197) 出村慎一, ほか「筋力と水泳パフォーマンスとの関係」原著. 24-(1) 59 p ~ 69 p 1979 ( S 54)
- (198) 出村慎一, ほか「筋力の階級的因子構造——大学男子水泳選手——」30. 大会号 489 p 1979 ( S 54)

- (199) 高橋伍郎, ほか「水泳能力と体力・運動能力の関係」31. 大会号 546 p 1980 (S 55)
- (200) 中本哲, ほか「水泳モスクワオリンピックの候補男子選手の体力について」31. 大会号 547 p 1980 (S 55)
- (201) 竹本洋, ほか「水泳時の心拍数連続記録について」31. 大会号 548 p 1980 (S 55)
- (202) 出村慎一, ほか「大学男子水泳選手のための柔軟性組テスト試案」31. 大会号 549 p 1980 (S 55)
- (203) 進藤正雄, ほか「水泳選手の重心高と比重高の理論的算出法に関する一考察」32. 大会号 521号 1981 (S 56)
- (204) 赤池英和「水泳選手の身体のねじれについて」32. 大会号 534 p 1981 (S 56)
- (205) 出村慎一, ほか「大学男子水泳選手の泳法別に見た筋力及び形態の比較」32. 大会号 537 p 1981 (S 56)
- (206) 出村慎一, ほか「水泳能力の因子構造——中学生男子水泳選手——」33. 大会号 558 p 1982 (S 57)
- (207) 野村照夫, ほか「水泳選手の特性を知るための基礎運動能力テストの検討」33. 大会号 559 p 1982 (S 57)
- (208) 出村慎一, ほか「水泳能力因子構造の性差——中学生水泳選手——」原著. 27—(4) 287 p ~299 p 1983 (S 58)
- (209) 野村照夫, ほか「大学男子水泳選手の水泳パフォーマンスと体格属性との関係について」34. 大会号 514 p 1983 (S 58)
- (210) 小村堯, ほか「水泳選手の身体適性に関する研究」35. 大会号 679 p 1984 (S 59)
- (211) 森井博之, ほか「飛込競技選手の体力に関する一考察——男子ジュニア強化対象選手における——」36. 大会号 725 p 1985 (S 60)
- 2-2-6 統計・調査資料
- (212) 今村修「新設区立プールにおける利用者の状況について」29. 大会号 349 p 1978 (S 53)
- (213) 今村修「都内某区立プールにおける利用者の状況について (第2報)」30. 大会号 410 p 1979 (S 54)
- (214) 森井博之, ほか「飛び込み選手についての傷害調査」34. 大会号 654 p 1983 (S 58)
- (215) 森井博之, ほか「飛び込み選手についての傷害調査——大学生飛込選手の腰痛について——」35. 大会号 595 p 1984 (S 59)
- 2-2-8 その他
- (216) 鎌田正裕, ほか「肢体不自由児の水泳訓練効果について——呼吸機能検査方法の検討——」31. 大会号 724 p 1980 (S 55)
- 2-4-1 遠泳
- (217) 布施茂治, ほか「臨海学校における水泳・遠泳指導についての実践的研究」18.

12-(5) 192 p 1968 (S 43)

2-4-3 野外活動・水泳教室

- ・(218) 齊実, ほか「体育学習に関する研究(専攻生の水泳実習について)第2報その1, 臨海実習の在り方について」7. 2-(7) 88 p 1957 (S 32)
- (219) 山田良樹, ほか「野外教育活動における環境調査の一例について」17. 11-(5) 217 p 1967 (S 42)
- (220) 村川俊彦, ほか「臨海学校のプログラムに関する一考察」35. 大会号 674 p 1984 (S 59)

〈3〉基礎科学に関する研究

3-1 生理学

- (221) 佐藤照男「水泳中における体表面温度の降下とその回復時間に関する実験的研究」3. 大会記録 11 p 1952 (S 27)
- (222) 北浜章, ほか「夏期及び冬期水泳の皮膚温に及ぼす影響について」3. 大会記録 12 p 1952 (S 27)
- (223) 山岡誠一, ほか「スポーツのエネルギー代謝に関する研究(第6報)——競走及び競泳のエネルギー代謝——」4. 大会記録 5 p 1953 (S 28)
- (224) 佐藤隆「海浜水泳合宿訓練における疲労」5. 大会記録 7 p 1954 (S 29)
- (225) 北浜章, ほか「水泳による蛋白尿の出現について」5. 大会記録 15 p 1954 (S 29)
- (226) 丹羽正「水泳時における皮膚温等の変化について」5. 大会記録 20 p 1954 (S 29)
- (227) 佐藤照男, ほか「水泳における疲労に関する一考察」6. 大会記録 42 p 1955 (S 30)
- (228) 東次右衛門, ほか「水泳合宿中の一考察」6. 大会記録 42 p 1955 (S 30)
- (229) 大塚直, ほか「女子水泳合宿における二, 三の考察について」6. 大会記録 42 p 1955 (S 30)
- (230) 丹羽正「水泳時における皮膚温等の変化について」6. 大会記録 47 p 1955 (S 30)
- (231) 加藤延雄「水泳に関する一実験(第1報)」6. 大会記録 47 p 1955 (S 30)
- (232) 村上長雄, ほか「学童の舌下温に対する海水浴の影響」原著. 2-(5) 222 p ~ 226 p 1957 (S 32)
- (233) 玉野勝郎, ほか「体育学習に関する研究(専攻生の水泳実習について)第2報その2, 臨海実習の疲労について」7. 2-(7) 89 p 1957 (S 32)
- (234) 岡本卓夫, ほか「体育学習に関する研究(専攻生の水泳実習について)第2報その3, 臨海合宿と他の陸上合宿との疲労について」7. 2-(7) 90 p 1957 (S 32)
- (235) 小田良省, ほか「体育学習に関する研究(専攻生の水泳実習について)第2報その4, 遠泳のエネルギー代謝」7. 2-(7) 91 p 1957 (S 32)
- (236) 今田良一, ほか「体育学習に関する研究(専攻生の水泳実習について)第2報そ

- の5, 遠泳と5000m走の疲労について」7. 2-(7) 92 p 1957 (S 32)
- (237) 小野文子「保健衛生管理上の問題に関する一調査(臨海教育と疲労)」7. 2-(7) 188 p 1957 (S 32)
- (238) 網豊作「遠泳における尿中陽イオンの変動について」8. 3-(1) 226 p 1958 (S 33)
- (239) 広田公一, ほか「水泳のエネルギー代謝」8. 3-(1) 237 p 1958 (S 33)
- (240) 山岡誠一「水泳のスピードと酸素需要量の関係——スポーツのエネルギー代謝に関する研究(第9報)——」原著. 3-(3) 42 p ~47 p 1958 (S 33)
- (241) 小野文子, ほか「保健衛生管理上の問題に関する一調査(臨海教育と疲労)」9. 4-(1) 61 p 1959 (S 34)
- (242) 定末誠治, ほか「保健衛生管理上の問題に関する一調査(臨海教育と疲労)」9. 4-(1) 62 p 1959 (S 34)
- (243) 長野昭夫, ほか「水泳指導の実証的研究(その1)」9. 4-(1) 63 p 1959 (S 34)
- (244) 相馬武美「水泳練習における皮膚温の測定結果について」9. 4-(1) 94 p 1959 (S 34)
- (245) 角田泰造「疲労測定に関する研究(第2報)——臨海水泳実習における疲労測定——」9. 4-(1) 107 p 1959 (S 34)
- (246) 勝村竜一, ほか「水泳競技の医学的考察」10. 5-(1) 180 p 1960 (S 35)
- (247) 村上長雄, ほか「競泳の体力医学的研究」10. 5-(1) 181 p 1960 (S 35)
- (248) 阿久津邦男「水泳のスピードと酸素需要量の関係」10. 5-(1) 192 p 1960 (S 35)
- (249) 相馬武美「皮膚温に関する一研究(No. 2)——臨海水泳練習における皮膚温の変動について——」10. 5-(1) 196 p 1960 (S 35)
- (250) 岸檣夫「水泳時における体温の一考察」10. 5-(1) 197 p 1960 (S 35)
- (251) 勝村竜一, ほか「水泳競技における医学的考察」11. 6-(1) 82 p 1961 (S 36)
- (252) 山淵利文「一大学生の水泳合宿時のエネルギー代謝について」11. 6-(1) 109 p 1961 (S 36)
- (253) 相馬武美「皮膚温に関する研究(No. 3)——臨海水泳練習における皮膚温の変動について——」11. 6-(1) 120 p 1961 (S 36)
- (254) 村上長雄, ほか「競泳の本力医学的研究(第2報)」11. 6-(1) 135 p 1961 (S 36)
- (255) 出口庄佑, ほか「中学校水上競技会にみた疲労について」11. 6-(1) 139 p 1961 (S 36)
- (256) 村田栄, ほか「水中静止時における身体の性状に関する研究」11. 6-(1) 140 p 1961 (S 36)
- (257) 向井梶士「大学生の潜水時間(第2報)——潜水時間と呼吸停止持続時間——」11. 6-(1) 179 p 1961 (S 36)
- (258) 芹田寿彦, ほか「水泳合宿練習中の体力の推移について(第2報)」11. 6-(1)



- 193 p 1961 (S 36)
- (259) 佐野清次郎「気温・水温が練習時間に及ぼす影響について——水泳実習の場合——」11. 6-(1) 256 p 1961 (S 36)
- (260) 日比野朔郎, ほか「夏期水泳合宿練習の体力医学的研究」12. 7-(1) 150 p 1962 (S 37)
- (261) 久保俊兼, ほか「運動部夏季合同合宿における疲労の称相について」12. 7-(1) 151 p 1962 (S 37)
- (262) 石井喜八, ほか「水泳中の筋電図」12. 7-(1) 153 p 1962 (S 37)
- (263) 阿久津邦男「水泳のスピードと酸素需要量ならびに効率との関係」12. 7-(1) 171 p 1962 (S 37)
- (264) 丹羽健市, ほか「水泳指導における基礎的研究」12. 7-(1) 252 p 1962 (S 37)
- (265) 森田茂男, ほか「水泳の合宿練習に疲労についての考察」12. 7-(1) 260 p 1962 (S 37)
- (266) 荒川安広, ほか「水泳訓練中における体温日間変動の観察」13. 8-(1) 28 p 1963 (S 38)
- (267) 羽生典正, ほか「水泳訓練中における基礎体温, 基礎脈拍並びに体重との相関性について」13. 8-(1) 29 p 1963 (S 38)
- (268) 山田良樹, ほか「水泳実習の医学的管理(1)——心臓疾患のスクリーニング——」13. 8-(1) 109 p 1963 (S 38)
- (269) 円吉夫, ほか「水泳実習の医学的管理——水泳実習生活のタイムスタディ——」13. 8-(1) 110 p 1963 (S 38)
- (270) 水野忠和, ほか「水泳中の心拍数」13. 8-(1) 353 p 1963 (S 38)
- (271) 猪飼道夫, ほか「水泳に関する筋電図学的研究」原著. 海外版第2号 7-(4) 47 p ~52 p 1964 (S 39)
- (272) 浮田剛, ほか「海水浴が循環機能に及ぼす影響」14. 9-(1) 95 p 1964 (S 39)
- (273) 山内咲子, ほか「入水の血圧に及ぼす影響」14. 9-(1) 96 p 1964 (S 39)
- (274) 円吉夫「水温によるエネルギー代謝の変化について」14. 9-(1) 108 p 1964 (S 39)
- (275) 朝倉正昭, ほか「水泳実習における疲労の研究」14. 9-(1) 267 p 1964 (S 39)
- (276) 荒川清美, ほか「競泳中における脈拍数, 皮膚温, 直腸温の変化について」14. 9-(1) 268 p 1964 (S 39)
- (277) 田村光子, ほか「水泳事故防止のための医学的検査」14. 9-(1) 365 p 1964 (S 39)
- (278) 山淵利文「水泳合宿中の朝晩の脈拍について」15. 10-(1) 31 p 1965 (S 40)
- (279) 鈴木蔵治「水中における負荷時の血圧変動」15. 10-(1) 34 p 1965 (S 40)
- (280) 東正雄, ほか「運動と反応時間に関する研究(第2報)——バスケット・ボール

- 及び水泳合宿練習中の反応時間の変化について——」15. 10-(1) 238 p 1965 (S 40)
- (281) 鈴木蔵治, ほか「水中における負荷時の血圧変動 (その2)」16. 10-(2) 177 p 1966 (S 41)
- (282) 円吉夫「水温によるエネルギー代謝の変化について」16. 10-(2) 179 p 1966 (S 41)
- (283) 円吉夫, ほか「水温によるエネルギー代謝の変化について」17. 11-(5) 104 p 1967 (S 42)
- (284) 正木健雄, ほか「遠泳時の身体的負担について」17. 11-(5) 216 p 1967 (S 42)
- (285) 青山晴雄, ほか「東洋大学の水泳教室における一般体育実技生の体調について」17. 11-(5) 218 p 1967 (S 42)
- (286) 細谷眞澄, ほか「夏期水泳実習における体力医学的研究」19. 13-(5) 181 p 1969 (S 44)
- (287) 大塚正八郎, ほか「入水動作と血圧・脈拍の動揺」21. 15-(5) 159 p 1971 (S 46)
- (288) 酒井志郎, ほか「水泳実習における疲労に関する研究 (第2報)」21. 15-(5) 164 p 1971 (S 46)
- (289) 山淵利文, ほか「水泳・登山等における疲労について」21. 15-(5) 227 p 1971 (S 46)
- (290) 宮下充正, ほか「日本人水泳選手の最大酸素摂取量」原著. 16-(5) 253 p 1972 (S 47)
- (291) 大杉五郎, ほか「児童の水泳時における疲労に関する研究」23. 大会号 280 p 1972 (S 47)
- (292) 伊藤秀三郎, ほか「遊泳時間について」24. 大会号 148 p 1973 (S 48)
- (293) 滝瀬定文, ほか「水泳競技部合宿における疲労の一考察」24. 大会号 216 p 1973 (S 48)
- (294) 佐々木敏, ほか「水泳における泳法3種目の比較——筋電図による——」25. 大会号 496 p 1974 (S 49)
- (295) 黒川隆志, ほか「水泳における呼吸調整について」25. 大会号 501 p 1974 (S 49)
- (296) 和倉正勝「水泳授業中の尿中カテコラミン排泄量について」26. 大会号 641 p 1975 (S 50)
- (297) 坂井洋子, ほか「ラットの水泳における循環血液量と血液性状の変化について」28. 大会号 277 p 1977 (S 52)
- (298) 内山四郎, ほか「泳者の呼吸機能の発達について——一般人との比較から——」28. 大会号 445 p 1977 (S 52)
- (299) 宮下充正, ほか「水泳選手の等速性収縮力」29. 大会号 199 p 1978 (S 53)
- (300) 大原哲男, ほか「水泳選手のCO<sub>2</sub>換気量応答曲線について」29. 大会号 257 p 1978 (S 53)

- (301) 吉沢正尹, ほか「トップクラス泳者における力泳中の筋放電様相の特徴について」  
29. 大会号 608 p 1978 (S 53)
- (302) 岡秀郎「筋作用機序の立場からみた水泳の習熟過程」29. 大会号 609 p 1978 (S 53)
- (303) 角田泰造「徒人方式潜水に従事している海女の心臓機能」29. 大会号 610 p 1978 (S 53)
- (304) 野村武男, ほか「水泳時における呼吸循環機能特性」29. 大会号 612 p 1978 (S 53)
- (305) 野村武男「エージグループ水泳選手の最大酸素摂取量について」原著. 22-(5)  
301 p ~ 309 p 1978 (S 53)
- (306) 磨井祥夫, ほか「水泳・陸上選手の等速性筋収縮力」30. 大会号 225 p 1979 (S 54)
- (307) 黒川隆志, ほか「水泳及び陸上運動時肺気量とクロージングボリューム」30, 大会号 253 p 1979 (S 54)
- (308) 野村武男「トップ・スイマーのトレッドミル, 水泳運動における最大肺拡散力について」30, 大会号 254 p 1979 (S 54)
- (309) 滝瀬定文, ほか「血中乳酸濃度からみた水泳運動の距離(時間)とエネルギー」  
30. 大会号 286 p 1979 (S 54)
- (310) 飯塚邦明, ほか「心拍数から見た一般人の泳ぎ方」30. 大会号 287 p 1979 (S 54)
- (311) 野村武男, ほか「水泳モスクワオリンピック候補選手の最大酸素摂取量について」  
31. 大会号 302 p 1980 (S 55)
- (312) 黒川隆志, ほか「水泳モスクワオリンピック候補選手の最大酸素負債量について」  
31. 大会号 303 p 1980 (S 55)
- (313) 村松成司, ほか「ラットの成長, 摂食量及び遊泳持久力におよぼす食餌タンパク  
レベルまたは運動訓練の影響」31. 大会号 339 p 1980 (S 55)
- (314) 榎村脩生, ほか「裸体及び着衣による運動時の生体反応」31. 大会号 372 p 1980 (S 55)
- (315) 内野欽司, ほか「水泳時の鼓膜温」31. 大会号 382 p 1980 (S 55)
- (316) 小林培男, ほか「水泳運動における重度脳性まひ児の運動強度について」31. 大会号 384 p 1980 (S 55)
- (317) 宮下充正「スポーツ選手におけるアイソキネティック・トレーニング——水泳選手の場合——」32. 大会号 79 p 1981 (S 56)
- (318) 芝山秀太郎, ほか「一流水泳選手における強化合宿時の尿中ホルモンの変動」32. 大会号 310 p 1981 (S 56)
- (319) 小郷克敏, ほか「水泳訓練による利尿の要因」32. 大会号 315 p 1981 (S 56)
- (320) 小野寺孝一, ほか「各種水温下における運動時酸素摂取量と仕事量について」32.

大会号 322 p 1981 (S 56)

(321) 池上晴夫「Cryo-Thermo Stress Test による水泳選手の体温調節に関する研究」

32. 大会号 324 p 1981 (S 56)

(322) 竹本洋, ほか「水中における体位変化の心電図記録について」32. 大会号 330 p 1981 (S 56)

(323) 黒川隆志, ほか「回流水槽, 100m, トレッドミル走及び自転車運動における水泳選手の酸素負債量」32. 大会号 353 p 1981 (S 56)

(324) 野村武男, ほか「トップスイマーの回流槽泳及び自転車運動時の最大酸素摂取量について」32. 大会号 354 p 1981 (S 56)

(325) 菊地邦雄, ほか「水泳選手の上肢と下肢の等速性筋力」32. 大会号 370 p 1981 (S 56)

(326) 滝瀬定文, ほか「泳法別にみた水泳スピードと EMG の関係について」33. 大会号 255 p 1982 (S 57)

(327) 芝山秀太郎, ほか「全日本水泳選手権出場選手の尿中物質の変動」33. 大会号 269 p 1982 (S 57)

(328) 内野欽司, ほか「頭部冷却時の中枢性体温調節と水泳選手の寒冷適応」33. 大会号 282 p 1982 (S 57)

(329) 小野寺孝一, ほか「水中運動時の体温変動からみた作業能力について」33. 大会号 283 p 1982 (S 57)

(330) 野村武男「エージグループ水泳選手の発育と  $VO_{2max}$  及び記録について」33. 大会号 312 p 1982 (S 57)

(331) 竹本洋, ほか「長時間水泳時の生理学的応答」33. 大会号 319 p 1982 (S 57)

(332) 竹内久美「潜水時(素潜り)の血液成分の変化と濃縮現象について」33. 大会号 336 p 1982 (S 57)

(333) 小郷克敏, ほか「遠泳による尿中イオン排泄変動」33. 大会号 343 p 1982 (S 57)

(334) 岩崎義正「水泳時間および頻度がラットの発育におよぼす影響について」33. 大会号 350 p 1982 (S 57)

(335) 池上晴夫, ほか「水泳における浮くためのエネルギーと推進のためのエネルギーの男女の比較」原著. 28-(1) 33 p ~ 42 p 1983 (S 58)

(336) 河瀬雅夫, ほか「シンクロナイズド・スイミング競技中の心拍数の変化について」34. 大会号 205 p 1983 (S 58)

(337) 竹内久美「スキューバ潜水訓練時の血液成分の変化について」34. 大会号 281 p 1983 (S 58)

(338) 田口貞善, ほか「低圧と水泳が骨格筋及び臓器組織の酵素活性に及ぼす影響について」34. 大会号 300 p 1983 (S 58)

(339) 円信介, ほか「水泳合宿訓練が心機能に及ぼす影響に関する検討」34. 大会号

304 p 1983 (S 58)

- (340) 富樫泰一, ほか「エネルギー出量からみた水泳パフォーマンスの予測」34. 大会号 315 p 1983 (S 58)
- (341) 朝野聡, ほか「水泳トレーニングがラットの血清リポ蛋白とヘパリン静注後のリパーゼ活性に及ぼす影響」34. 大会号 327 p 1983 (S 58)
- (342) 出村慎一, ほか「泳法別に見た水泳選手の形態・筋力・柔軟性及び神経機能の比較」原著. 29-(1)25 p ~34 p 1984 (S 59)
- (343) 中林久美子, ほか「女子水泳選手の100mクロール泳速度と上肢の等速性最大筋力・筋持久力との関係」35. 大会号 232 p 1984 (S 59)
- (344) 野村武男, ほか「水泳におけるATトレーニング」35. 大会号 295 p 1984 (S 59)
- (345) 小野寺孝一, ほか「各種水温下における運動時STIについて」35. 大会号 313 p 1984 (S 59)
- (346) 竹本洋ほか, 「潜水時の体位変換と潜水遊泳の心電図記録について」35. 大会号 315 p 1984 (S 59)
- (347) 国井実, ほか「スイミル及びトレッドミルによる少年水泳選手の最大酸素摂取量」35. 大会号 359 p 1984 (S 59)
- (348) 石井英之, ほか「小学生対象のスイミングスクールにおける指導項目及びスクーリング中の心拍数」35. 大会号 306 p 1984 (S 59)
- (349) 後藤真二, ほか「クロール泳における腕および脚の協応能の評価法に関する研究」35. 大会号 681 p 1984 (S 59)
- (350) 三宅順子, ほか「室内プール温熱環境の検討」36. 大会号 279 p 1985 (S 60)
- (351) 内野欽司, ほか「水泳選手及びダイバーの耐寒性と鼓膜温」36. 大会号 363 p 1985 (S 60)

### 3-2 心理学

- (352) 岸檣夫, ほか「スポーツの練習及び競技前後の主観的時間に関する実験的研究(第1報)——水泳選手の練習及び競泳前後の主観的時間について——」5. 大会記録 21 p 1955 (S 30)
- (353) 岸純子, ほか「水泳指導に関する基礎的研究」12. 7-(1) 253 p 1962 (S 37)
- (354) 篝正義, ほか「水泳指導に関する考察第2報(その2)——天理市小中学児童生徒の水泳に関する興味・関心について——」12. 7-(1) 257 p 1962 (S 37)
- (355) 定末誠治, ほか「水泳に対する態度について」12. 7-(1) 258 p 1962 (S 37)
- (356) 藤江学, ほか「心身相関に関する諸問題, 運動選手の人柄(第3報)——水泳, 洋弓の選手について——」13. 8-(1) 195 p 1963 (S 38)
- (357) 岸檣夫, ほか「水泳の飛び込み台の上に立った時の心理的時間」13. 8-(1) 233 p 1963 (S 38)
- (358) 西尾貫一, ほか「M.M.P.Iによる性格分析と実技指導(水泳講習会において)」

14. 9-(1) 294 p 1964 (S 39)
- (359) 中西信行, ほか「体育運動における恐怖心(その2)——水泳における恐怖心——」
15. 10-(1) 234 p 1965 (S 40)
- (360) 上田雅夫, ほか「タイミングに関する研究——水泳・体操選手の時間評価について——」
16. 10-(2) 342 p 1966 (S 41)
- (361) 勝部篤美「運動学習におけるイメージ利用の実験的研究(1)水泳学習について」
16. 10-(2) 443 p 1966 (S 41)
- (362) 富田善太郎「高等学校水泳選手に実施した自律訓練法の効果に関する研究」原著.
- 13-(2) 75 p ~ 82 p 1968 (S 43)
- (363) 松島宏, ほか「泳げない生徒についての心理学的研究そのⅡ」
20. 14-(5) 59 p 1970 (S 45)
- (364) 小村堯「運動能力の見積り——泳法の見積りについて——」
21. 15-(5) 67 p 1971 (S 46)
- (365) 古賀長善「水泳選手の泳速学習訓練としてのメンタルリハーサル法」
21. 15-(5) 69 p 1971 (S 46)
- (366) 小俣充, ほか「『泳げる』ことに関する意識調査」
21. 15-(5) 226 p 1971 (S 46)
- (367) 和泉洋, ほか「初心者の水泳技術上達に関する心理的・体力的・形態的要因について」
21. 15-(5) 241 p 1971 (S 46)
- (368) 山本世志男, ほか「プール利用・屋内スケート場利用にみる参加の意識についての研究」
22. 大会号 511 p 1971 (S 46)
- (369) 荒木昭好「日米水泳選手の練習などに対する態度の比較」
23. 大会号 87 p 1972 (S 47)
- (370) 高森秀蔵, ほか「泳げない生徒の指導に関する研究(心理的側面に対する考察)」
24. 大会号 307 p 1973 (S 48)
- (371) 佐野新一, ほか「水泳における動作の認知のパターンの変容に関する研究」
28. 大会号 614 p 1979 (S 52)
- (372) 中川敬「職場にみられる腰痛の実態と運動セラピーに関する研究——特に水中セラピーについて——」
28. 大会号 646 p 1977 (S 52)
- (373) 村川俊彦, ほか「遠泳前後の攻撃反能の変化について」
29. 大会号 516 p 1978 (S 53)
- (374) 猪俣公宏, ほか「背泳ぎの学習初期におけるモデル提示によるメンタルトレーニング効果に関するフィールド研究——その方法論的試論——」原著.
- 24-(2) 101 p ~ 108 p 1979 (S 54)
- (375) 伊藤政展「水泳ぎ技能の観察学習における能動のおよび受動的イメージリハーサルの効果に関するフィールド・リサーチ」原著.
- 24-(4) 291 p ~ 299 p 1980 (S 55)
- (376) 岡村豊太郎, ほか「背泳の指導学習に及ぼすメンタル・プラクティスの効果——

- 達成イメージを強化するメンタルプラクティスについての検討——」32. 大会号 273 p 1981 (S 56)
- (377) 滝省治, ほか「水泳学習に伴う児童の意識変容『水への適応』調査票を用いて」33. 大会号 208 p 1982 (S 57)
- (378) 荒木昭好, ほか「大学競泳選手の行動的特徴」33. 大会号 509 p 1982 (S 57)
- (379) 越山賢一, ほか「積雪寒冷地における水泳授業に関する一考察——プール保有校と共同利用校について——」35. 大会号 176 p 1984 (S 59)
- (380) 徳島了, ほか「妊産婦運動プログラム作成のための基礎研究(Ⅲ)——水泳トレーニングの心理的効果について——」35. 大会号 752 p 1984 (S 59)
- 3-3 バイオメカニクス
- (381) 須藤務基「水泳練習における一考察(第1報)」7. 2-(7) 263 p 1957 (S 32)
- (382) 石田忠彦「水泳基本姿勢の流水中における抵抗力の研究」8. 3-(1) 30 p 1958 (S 53)
- (383) 大永政人, ほか「水泳の効率」9. 4-(1) 120 p 1959 (S 34)
- (384) 羽生純夫, ほか「水泳の効率第2報(その1)——牽引力と推力との関係について——」10. 5-(1) 178 p 1960 (S 35)
- (385) 大永政人, ほか「水泳の効率第2報(その2)——水泳の工率について——」10. 5-(1) 179 p 1960 (S 35)
- (386) 岸檣夫「競泳における腕・脚のバランスについて」12. 7-(1) 189 p 1962 (S 37)
- (387) 大永政人, ほか「水泳の効率第3報——抵抗に影響をあたえる要因について——」12. 7-(1) 193 p 1962 (S 37)
- (388) 須藤務基, ほか「水泳推進力と手掌面積, 足掌面積の関係について」12. 7-(1) 194 p 1962 (S 37)
- (389) 柏原健三, ほか「水泳指導における基礎的研究」12. 7-(1) 255 p 1962 (S 37)
- (390) 佐野清次郎「人体の比重と水泳能力との関係に関する研究」12. 7-(1) 259 p 1962 (S 37)
- (391) 山根成之「水泳の逆飛び込みにおける動体分析について」14. 9-(1) 270 p 1964 (S 39)
- (392) 佐野清次郎「人体の重心と水泳能力との関係に関する研究」15. 10-(1) 92 p 1965 (S 40)
- (393) 佐野清次郎「平泳ぎの腕の動作に関する分析的研究」18. 12-(5) 138 p 1968 (S 43)
- (394) 佐野清次郎「平泳ぎの動作に関する分析的研究」19. 13-(5) 170 p 1969 (S 44)
- (395) 池内八郎「競泳スタートに関する分析的研究」19. 13-(5) 171 p 1969 (S 44)
- (396) 小田敏彰「飛び板飛び込みの助走における腕の振りに関する一考察」19. 13-(5) 290 p 1969 (S 44)
- (397) 志沢千鶴子, ほか「助走(飛び板飛び込み)におけるハードルステップの踏み込

- みに関する一考察」21. 15-(5) 224 p 1971 (S 46)
- (398) 小田敏彰, ほか「後ろ踏切り(飛び込み)の腕の振りに関する一考察」21. 15-(5) 225 p 1971 (S 46)
- (399) 志沢千鶴子「助走(飛び板飛び込み)に関する一考察」22. 大会号 404 p 1971 (S 46)
- (400) 佐野清次郎「クロールストロークの動作に関する分析的研究」22. 大会号 405 p 1971 (S 46)
- (401) 宮下充正, ほか「水泳スピードを構成するもの」23. 大会号 258 p 1972 (S 47)
- (402) 佐野清次郎「背泳ぎの動作に関する分析的研究」23. 大会号 469 p 1972 (S 47)
- (403) 宮畑虎彦, ほか「浮力の中心の測定法」24. 大会号 196 p 1973 (S 48)
- (404) 正力義晴, ほか「バタフライの熟練者と未熟練者の比較」24. 大会号 197 p 1973 (S 48)
- (405) 佐々木敏「クロールのキネシオロジ的研究——筋電図による比較——」24. 大会号 198 p 1973 (S 48)
- (406) 田口正公「水泳における協応動作の分析的研究」25. 大会号 362 p 1974 (S 49)
- (407) 高橋伍郎, ほか「水泳における浮力の研究」25. 大会号 497 p 1974 (S 49)
- (408) 清原伸彦, ほか「頭髪の水泳レコードに及ぼす影響」25. 大会号 498 p 1974 (S 49)
- (409) 宮畑虎彦, ほか「屈筋力に対する伸筋力の比率と泳ぎの動作の関係」25. 大会号 499 p 1974 (S 49)
- (410) 柴田義晴, ほか「泳ぎのスピード変化と動作の関係」25. 大会号 500 p 1974 (S 49)
- (411) 岡本勉, ほか「幼児における水中動作(バタ足)の筋電図的研究」26. 大会号 323 p 1975 (S 50)
- (412) 大坪敏郎, ほか「飛び込みにおけるバイク姿勢の慣性能率について」26. 大会号 331 p 1975 (S 50)
- (413) 高橋伍郎, ほか「水泳における呼吸法の研究」26. 大会号 354 p 1975 (S 50)
- (414) 浜田元輔, ほか「水泳における上肢のカキの前進力について」26. 大会号 355 p 1975 (S 50)
- (415) 宮畑虎彦, ほか「水中の姿勢と浮揚力の関係」26. 大会号 356 p 1975 (S 50)
- (416) 柴田義晴, ほか「泳ぎの動作により発生する水流について」26. 大会号 357 p 1975 (S 50)
- (417) 相場百合香, ほか「浮力の中心高の測定について」26. 大会号 358 p 1975 (S 50)
- (418) 佐藤泰司, ほか「水泳の解剖学的解析(2)」26. 大会号 362 p 1975 (S 50)
- (419) 柳田泰義, ほか「水泳における水抵抗の測定(その1) 回流水槽」27. 大会号 303 p 1976 (S 51)



- (420) 内田整子, ほか「水泳のフローテングの基礎的考察」27. 大会号 304 p 1976 (S 51)
- (421) 日高敬児, ほか「クロールのアームストローク数と泳速」27. 大会号 417 p 1976 (S 57)
- (422) 佐々木敏, ほか「競泳のスタートに関する分析的研究」27. 大会号 458 p 1976 (S 51)
- (423) 高橋豊治, ほか「佐藤—高藤式水中用超小型圧力センサーによる競泳4種目のキネシオロジー的解析」28. 大会号 315 p 1977 (S 52)
- (424) 大坪敏郎, ほか「飛び板飛び込みにおける飛び板の効果的使用時のたわみの研究」28. 大会号 316 p 1977 (S 52)
- (425) 相場百合香, ほか「脊柱のわん曲・柔軟度と水泳能力の関係 (第2報)」28. 大会号 317 p 1977 (S 52)
- (426) 高橋伍郎, ほか「水中における人体の平衡」28. 大会号 340 p 1977 (S 52)
- (427) 岡秀郎, ほか「幼児のFlutter Kieckeの習得習熟過程にみられる筋作用機序の変化」28. 大会号 341 p 1977 (S 52)
- (428) 浜田元輔, ほか「平泳ぎにおける前進力の測定について」28. 大会号 342 p 1977 (S 52)
- (429) 吉沢正尹, ほか「平泳ぎの筋電図的研究」28. 大会号 343 p 1977 (S 52)
- (430) 佐々木敏, ほか「競泳における腕振り型スタートに関する分析的研究」原著. 23—(1) 25 p ~ 33 p 1978 (S 53)
- (431) 吉沢正尹, ほか「トップ泳者における筋電図所見のフィードバック効果」30. 大会号 363 p 1979 (S 54)
- (432) 大家達生, ほか「平泳ぎの手のかきによる重心移動について」31. 大会号 625 p 1980 (S 55)
- (433) 田口正公, ほか「クロールのストローク速度と推進速度の分析」32. 大会号 436 p 1981 (S 56)
- (434) 前田寛「クロール泳法のアームプルとその推進力についての力学的考察」32. 大会号 437 p 1981 (S 56)
- (435) 高本美和子, ほか「水泳によって生じる波高の測定および評価」33. 大会号 406 p 1982 (S 57)
- (436) 高本美和子, ほか「泳法, 泳速別にみた波高の減衰率」34. 大会号 389 p 1983 (S 58)
- (437) 滝瀬定文, ほか「水泳運動における水抵抗の分析」34. 大会号 399 p 1983 (S 58)
- (438) 土居陽三郎, ほか「けのびのモデルによる解析——その2——」35. 大会号 400 p 1984 (S 59)
- (439) 新宅幸憲, ほか「身体重心の変化からみた2つの競泳スタート法の比較」35. 大

会号 401 p 1984 (S 59)

- (440) 松井敦典, ほか「水球のボール・ハンドリングに関する力学的考察——特にキャッチング動作に注目して——」35. 大会号 402 p 1984 (S 59)
- (441) 合屋十四秋, ほか「ゴニオグラムによるクロール泳中のストロークメカニク」35. 大会号 680 p 1984 (S 59)
- (442) 清水啓司, ほか「各種水中静止姿勢における足部を沈める力」35. 大会号 399 p 1984 (S 59)
- (443) 保坂かおる, ほか「競泳選手の記録の変化を Learned Helplessness」36. 大会号 197 p 1985 (S 60)
- (444) 本間正信, ほか「競泳スタート動作に関する力学的考察」36. 大会号 427 p 1985 (S 60)
- (445) 加賀勝, ほか「水球の投球動作についての研究」36. 大会号 439 p 1985 (S 60)
- (446) 長沢光雄, ほか「逆飛び込みの身体重心の分析」36. 大会号 453 p 1985 (S 60)
- 3-4 社会学
- (447) 仲至誠, ほか「紀の川中流の地域環境と水泳練習の関連性について」3. 大会記録 8 p 1952 (S 27)
- (448) 榎本彦次「琵琶湖の特殊的な自然環境下における滋賀県の水泳についての研究(第2報)」11. 6-(1) 29 p 1961 (S 36)
- (449) 永吉宏英, ほか「児童のスイミング・スクール入会に及ぼす要因の分析——特に親の側からみた入会の動機について——」26. 大会号 163 p 1975 (S 50)
- (450) 日高敬児, ほか「一般成人の可泳距離と“泳げる”ことの社会的基準」26. 大会号 164 p 1975 (S 50)
- (451) 藤原誠, ほか「児童の水泳参加とコミュニケーション・ソースに関する研究(その1)」29. 大会号 138 p 1978 (S 53)
- (452) 森正明, ほか「児童の水泳参加とコミュニケーション・ソースに関する研究(その2)」29. 大会号 139 p 1978 (S 53)
- (453) 吉田章, ほか「スイミング・クラブを中心とした成人の水泳活動の事態についての調査研究」29. 大会号 515 p 1978 (S 53)
- (454) 小泉東海雄, ほか「スポーツクラブの現状と問題点——スイミング・クラブについて——」30. 大会号 143 p 1979 (S 54)
- (455) 森正明, ほか「児童のスポーツ参加における関心の研究(その2)——水泳教室における事例——」30. 大会号 163 p 1979 (S 54)
- (456) 森明正, ほか「児童のスポーツ参加における参加の研究(第2報) その3——水泳教室におけるコミュニケーションの分析——」31. 大会号 208 p 1980 (S 55)
- 3-5 教育学
- (457) 坂田勇夫, ほか「正課体育のカリキュラム編成体制とその具体的教育方法の改善

- に関する研究(第3報) 10. 水泳の特性と自己課題化——解決法との関係——」 31. 大会号 790 p 1980 (S 55)
- (458) 高橋伍郎, ほか「正課体育のカリキュラム編成体制とその具体的教育方法の改善に関する研究(第4報) 9. 水泳授業における技能の習得過程」 32. 大会号 754 p 1981 (S 56)
- (459) 坂田勇夫, ほか「正課体育のカリキュラム編成体制とその具体的教育方法の改善に関する研究(第4報) 10. 水泳授業で試みた自己形成過程について」 32. 大会号 755 p 1981 (S 56)
- (460) 佐藤靖, ほか「正課体育におけるカリキュラム編成体制とその具体的教育方法の改善に関する研究(第4報) 11. 身体障害者の体育授業——脳性まひ学生O君にとっての『泳ぐということ』——」 32. 大会号 756 p 1981 (S 56)
- (461) 高橋伍郎, ほか「正課体育の具体的教育方法の改善に関する研究(5)——水泳授業における運動量把握のための方法論的考察——」 33. 大会号 793 p 1982 (S 57)
- (462) 坂田勇夫, ほか「正課体育の具体的教育方法の改善に関する研究(5)——水泳授業における達成課題の意味論的検討——」 33. 大会号 794 p 1982 (S 57)
- (463) 西迫貴美代, ほか「水泳の初心者指導に関する研究——バタフライ泳法の教授・学習におけるコトバを用いた活動の組織化——」 35. 大会号 812 p 1984 (S 59)
- (464) 椿本昇三, ほか「正課体育水泳授業中の心拍数変動と運動強度に関する一考察——特に10分間泳と水球ゲームについて——」 35. 大会号 813 p 1984 (S 59)

#### 〈4〉歴史に関する研究

##### 4-2 日本泳法史

- (465) 花田敬一, ほか「日本泳法における各流派の発生と変遷について(その1)」 8. 大会記録 17 p 1958 (S 33)
- (466) 網豊作「水術の一考察」 13. 大会記録 80 p 1963 (S 38)
- (467) 中森一郎「京都府下における観海流伝播について——先駆者清水誠吾に関する一考察——」 34. 大会号 118 p 1983 (S 58)
- (468) 中森一郎「京都府下における観海流伝播について(第2報)——京都府(尋常)師範学校との関わりから——」 36. 大会号 109 p 1985 (S 60)
- (469) 岩下聡「日本泳法・神統流の泳法に関する一考察」 36. 大会号 721 p 1985 (S 60)

##### 4-4 その他史的事項

- (470) 榎本彦次「琵琶湖を中心とした自然的水泳環境における滋賀県の水泳並に水泳能力とその時代的変遷について」 10. 5-(1) 330 p 1960 (S 35)
- (471) 花田年弘「水泳の起源について——人類と水との関係を中心として——」 11. 6-(1) 7 p 1961 (S 36)
- (472) 岸檣夫「水泳における初心者指導法の変遷」 17. 11-(5) 216 p 1967 (S 42)

(473) 平野稔「大分県における明治体育史の研究——学校水泳について——」24. 大会号 33 p 1973 (S 48)

(474) 村林正美「三重県の体育史“明治時代の海水浴と水泳”——皇太子明宮嘉仁親王(大正天皇)の二見浦行啓と海水浴——」36. 大会号 108 p 1985 (S 60)

#### 〈5〉記録に関する研究

##### 5-2 記録に関する調査

(475) 加藤延雄, ほか「スポーツの戦後における記録の推移——陸上競技, 水泳(競泳)について——」14. 大会記録 248 p 1964 (S 39)

### お わ り に

今回の文献分類にあたっては, 先に述べた通り水泳の特徴を考慮し, しかも水泳実践者の立場に立っての独自の分類方法をとった。分類基準は, 水泳研究のみならず, 水泳関係記事等の分類にも適用すべく筆者が作成したものであるが, 此の点に関して意見も多いところであり, いろいろご批判をいただきたいと思っている。

なお, 今後は体育学会各支部の機関誌, 各大学研究紀要について「体育学研究」水泳文献目録Ⅱとして目録の作成をすすめて行きたいと考えている。